

# シリーズ世界遺産 ②

## 世界遺産の登録基準

はじめに

いま世界遺産は、地球規模で注目を集めています。多くの人々が、そこを訪れますが、単に観光地となるのが世界遺産の本質ではなく、人類共通の資産として保存し、未来へと伝えていくことが目的です。

この世界遺産リストに登録するためには、その基準があります。そこで今回は、世界文化遺産の登録の要件についてみていくことにしましょう。これらを見ながら明日香村の価値について考えてもらえればと思います。

### 世界文化遺産

世界遺産条約では文化遺産を、記念工物、建造物群、遺跡と定義しています。

記念工物とは、彫刻や絵画、考古学的な物や建造物などで、歴史・芸術上顕著な価値を有するものとしています。建造物群は建築様式や町並

み、景観内での位置において、顕著な価値を有するもの。遺跡は、人工の所産や考古学的遺跡で顕著な価値を有するもの、としています。

### 世界遺産の登録基準

世界遺産リストに登録されるためには、文化遺産の場合は六つ、自然遺産の場合は四つの登録基準のうち、いずれかひとつ以上の基準を満たしている必要があります。ここでは文化遺産の六つのカテゴリリーについて解説しましょう。

① 人類の創造的才能を  
現す傑作

例えば、イタリアにある「フィレンツェの歴史地区」などは、ルネサンス芸術を象徴する大聖堂や宮殿など一四一五世紀の数多くの独創的な建築物が当時の姿のままに残っています。

② ある時代、ある世界文化圏において、建築物・技術・

記念碑・都市・景観計画の発展に大きな影響を与えたもの

例えば、ギリシアの『アテネのアクロポリス』は芸術的に優れた神殿や劇場・美術品があり、一三世紀以降にはヨーロッパで再評価され、これらの古代ギリシアの遺跡は、近代ヨーロッパの建築物に多大な影響を及ぼしました。

③ 現存する、あるいはすでに消滅してしまった文化的伝統や文明に関するもの

イタリアの「ポンペイ、エルコラーノ、トッレ・アヌンツィアータの考古地区」は火山灰によって埋もれたが、一七〇〇年後の調査によって、噴火当日の姿で蘇った。これによって消滅した古代ローマ都市の全貌が明らかとなった。

④ 人類の歴史上重要な段階を物語る建築様式や建築的・技術的な集合体や景観

スペインの「グラナダのアルハンブラ宮殿」は、イベリア半島がキリスト教支配からイスラム教支配に移ってからの八〇〇年の歴史を伝えており、特に、建物に施されている

繊細な装飾は、イスラム文化の栄華を物語っている。

⑤ ある文化を代表する伝統的集落や土地利用の顕著な例

例えば、「白川郷と五箇山の合掌造集落」は、山深い奥飛騨に残る独特な民家の集落であり、合掌造り家屋は、厳しい自然のなかで、大家族で暮らさなければならなかった人々の創意工夫の結晶である。

⑥ 顕著で普遍的な価値をもつ出来事・伝統・思想・信仰・芸術文学作品

アメリカの「自由の女神像」は合衆国独立一〇〇年を記念し、フランスが送ったもので、内部を鉄骨で支えた構造は、橋梁建造家エッフェルの知恵と技術の集大成である。

このように登録基準には六つ要件がありますが、近年はさらに「負の遺産」や「文化的景観」も重視されています。

負の遺産とは、平和や人道的な観点から、人類の行った忌まわしい出来事を記憶に留めるために規定された概念で、「広島平和記念碑」（原爆ドーム）やポーランドの「アウシュヴィツ強制収容所」などがその最たる例です。

文化的景観とは、人が自然に働きかけて作り出した風景のことで、自然と一体となった景観も指します。例えば「紀伊山地の霊場と参詣道」は古くからの信仰の場と自然環境が一体となったものです。

これらの基準のうち、いずれかに該当することが、登録の条件ですが、これに加えて、資産の真実性が重視され、意匠・材料・技術・環境・文化的景観は、その構成部分も含めて本物が要求されます。復元品についても推測を含まず、完璧かつ詳細な実証的な検討に基づいた場合に限るとされています。つまり、登録される資産は、本物であり、復元であっても、十分な真実性を追求したものでないといけないということなのです。

もうひとつは、登録された資産を確実に保護できる法的措置と管理体制が必要とされます。これは文化財保護法のもとに保存が確保され、保存されたものでなくてはならず、その管理も万全のものがないといけないということです。